

30-0405

体表 *Staphylococcus epidermidis* の多様性について—AFLP 分析の試み—
藤 美君¹, 松原 京子¹, ○大西 邦治¹ (北陸大薬)

【目的】医療技術の進歩に伴い、重症患者に対する体内留置医療器具やカテーテル挿入部位からの感染が問題になっており、原因菌としてバイオフィーム形成能を持つ *Pseudomonas aeruginosa*、*Serratia marcescens*、*Staphylococcus epidermidis* などがあげられている。これらの細菌は接触により院内感染あるいは内因性感染で定着増殖してバイオフィーム形成に至り、治療を困難にする。本研究はこの現状を踏まえ、健康成人の体表 *S. epidermidis* の定着状況の把握を目的とし、分離株の DNA 多様性解析に増幅断片長多型 (AFLP) 分析が適用できるか検討したものである。

【方法】健康成人の鼻腔内定着細菌を採取分離し、生化学的性状から *S. epidermidis* を選択分離した。それぞれの分離株から染色体 DNA を単離し、2 種類の制限酵素で消化断片化した。制限酵素認識配列の相補配列を末端に持つアダプター DNA を連結後 2 セットのプライマーを用いて 1st および 2nd の 2 回の PCR 法で DNA 断片を増幅した。ポリアクリルアミドゲル電気泳動により各分離株の増幅 DNA 断片パターン (AFLP プロフィール) を分析した。

【結果および考察】4 名の健康成人鼻腔から各 10 株、全 40 株の *S. epidermidis* を分離し、増幅断片長多型 (AFLP) 分析を行なった。それぞれ 10 分離株中 7 種類、7 種類、8 種類および 4 種類の異なる AFLP プロフィールが得られ、同一個体において遺伝型の異なる様々な *S. epidermidis* 株の存在が示された。AFLP 分析は着目株の水平伝播など経時的動向解析にも適用できると考えられる。同一個体の体表部位間での定着株の異同についても比較解析を進めている。